

大阪のてっぺん・能勢の里山遊び

例会担当理事の和光広典さんが能勢で農園を持っている、そして蓑庵という家もあるということで例会に組み込んでもらい、近くの里山散策を含めて企画してもらった。長谷(かた)の棚田や野間の大櫓(天然記念物)、能勢氏の地黄城址と菩提寺見学など変化に富んだ散策を楽しませてもらった。梅雨の中休みで二日間腫れたり曇ったりで比較的涼しく過ごせた。HNA から小笠原さんと橋本さんも参加。また山岳会の名簿に不明となっていた瀬野さんも復活参加され懐かしく、ちょっといつもと違う顔ぶれだった。



ACKU 163回例会 蓑庵(和光農園)にて 2013/6/29

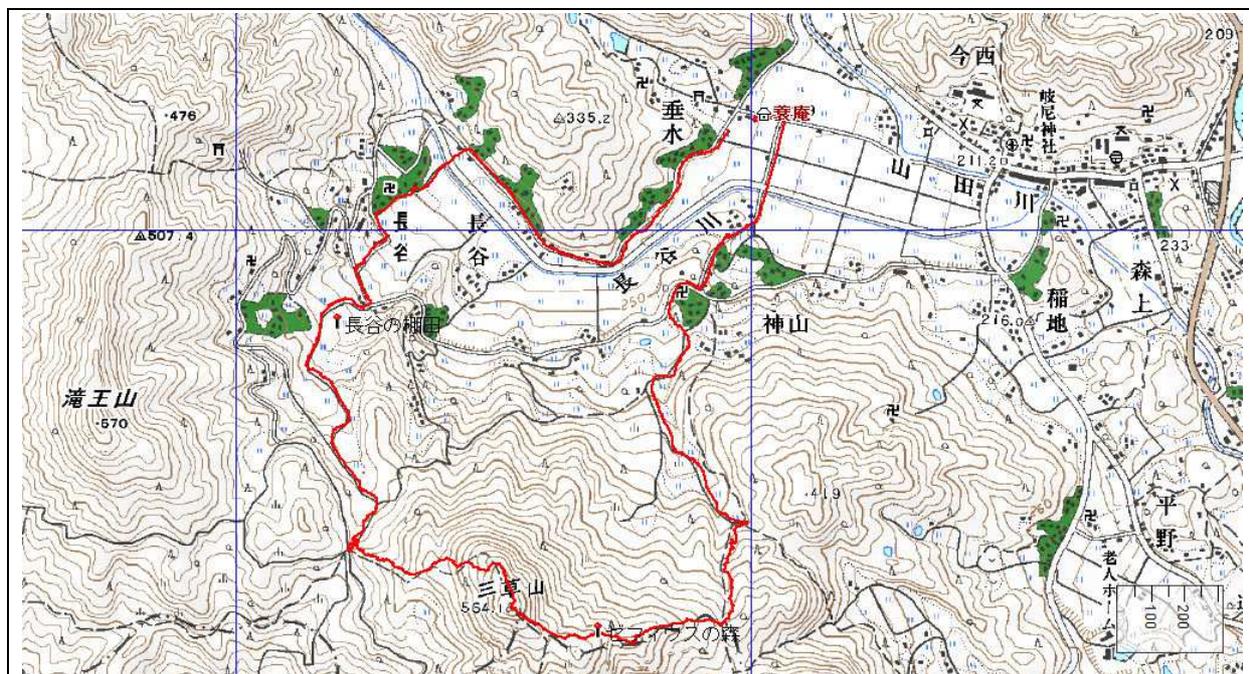
井上 瀬野 和光 和光婦人 小谷 金井 小笠原 居谷 橋本撮影

◇期日: 2013年6月29日、30日

◇参加者: 金井健二 小谷辰雄 瀬野鋼太郎 和光広典(L) 居谷千春 井上達男
橋本昭(HNA) 小笠原(HNA)

◇行動記録

2013年6月29日



午前中に蓑庵に到着し(井上は郡上から、橋本は自転車で遅れて正午頃に到着)、和光農園にて茄子などの収穫、これらは夕食の鉄板焼きの材料となった。完熟トマトはなかなか味わえない菜園取れたてならではのご馳走。和光婦人、八重子さんが昼食と夕食の準備をしてくださった。ペットの世話があるので残念ながら宴会には参加されなかった。昼食後、早速初日の予定である三草山^{みくさやま}564.1m ハイキングに出かけた。この山、ドーム型でどこかロプチン峰に似ていると居谷さんが言った。

13:40 蓑庵出発

出発して垂水の集落を少し進むと「妙日臨律師金井道場遺跡道」と刻まれた石塔が現れ、そこで金井さんに並んでもらって一枚写真を撮る。和光さんの準備してくれた～不思議探し～の地図には15か所の印があったがさて、どれだけ寄っていきけるのか。



タチアオイと三草山



蓑庵近くの道から三草山



妙日臨律師金井道場遺跡道



長谷のもりさん

14:04 「長谷のもりさん」土祖神

普通は道祖神と呼ばれているがここでは「土」となっている。祠の山側に巨大な松の切り株が残っている。

14:17 茅葺の民家 棚田の中腹にある民家

日本の原風景が残っている。棚田は貸農園になっている場所も多くあり、大阪の人たちの憩いの場になっている。



寺



古民家前にて 小谷 金井



長谷の棚田を登る

14:44 サイノカミ峠

ここは昔義経が人馬を整えて一の谷の戦いに出かけた場所だという。

15:08—15:44 ^{みくさ}三草山 564.1m

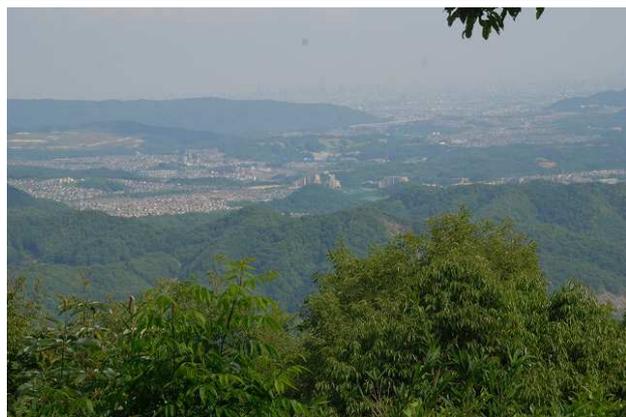
三草山より南に高い山無し。したがって大阪湾まで広々とした景観を楽しめる。少し霞んでいたがあれはどこだ、と指差しながら皆さん熱心に眺めていた。六甲山は南西にクジラの背のような輪郭を見せていた。ゆっくり登ってくる金井さんを待ってのんびり寛ぎながらそよ風を楽しむ。



蟻の仕業 三草山の登り



広々とした三草山山頂



大阪湾を見下ろす



六甲山も見える



小笠原さんは金井さんより3歳若い



ゼフィルスの森の立て看板

15:58 ゼフィルスの森

「能勢町三草山ゼフィルスの森は、日本に生息するミドリシジミ類の蝶（ゼフィルスという愛称でよばれる小型の蝶）25種のうち、10もの種類が生息している貴重な蝶の楽園です。なかでもヒロオビミドリシジミは大阪府内でここにしか生息しておらず、日本の分布の東限にもなっています。」と大阪みどりのトラスト協会のHPに説明がある。笹を刈り取って蝶が住みやすい環境を保全しようとしている。笹は東おたふく山でも嫌われている。里山は人の手が加えられて初めて維持ができるので現代の生活環境ではボランティアの助けが必要になっている。

16:38 慈眼寺

「人は己の善行によりて己を清め 己の悪行によりて己を汚す 浄不浄は己にあり 他によりて浄めらるるなし 法句経」と説教が入り口に掲げられていた。何が善で何が悪かが混んとしている今日、そこを導かないと坊主の値打ちがないと思うのは不信心者の私だけか。参道にアジサイが真っ青に咲いていた。土壌が酸性なのだろう、とまたまた素直に見ない不幸者であった。田の畦道にカンゾウが咲いていた。春先に和光さんが **HaksanView** に持ってきてくれた若芽のカンゾウが美味かったことを思い出す。どうも精神構造が浮世から解脱できないようだ。



青いアジサイ



カンゾウの花 山のニッコウキスゲも似たようなもの



棚田を下る



蓑庵 広い、離れまである



山田川奥の和光水田見学



水田の井戸から清水が出る

16:40 蓑庵帰着

紅一点の小笠原さんは日帰りで帰宅された。

17:25 山田川上流にある和光水田を見学

和光農園は谷のあちこちに散在しているが、夕食前に能勢温泉に行くついでに山田川の奥にある水田を見学させてもらった。谷の清水で米を作ると収穫は少なくなるが美味しいコメができる。和光農園のコメも一番奥の田圃のコメが美味しいそうだ。山岳部を最近卒業した農学部の学生が米の研究をしていた。天候や害虫などに負けない丈夫で作りやすい米を目標としているそうだ。「ちがうだろう、うまい米を研究してよ。」とリクエストしたが、さて。TPP 対策は「うまい」が基本だと思うのだが。



能勢温泉は駐車場が満車になるほど混雑していた。蓑庵に帰って宴会が始まった。近くで手に入れた豆腐が何種類も食べられた。瀬野さんが鉄板焼きのシェフをやってくれた。聞かなかったが焼肉の肉は「福井牧場の能勢牛」だったのだろうか。焼き鳥は猪名川(鶏の仲元)の焼き鳥だったのだろうか。ま、美味しくいただいたので身元調査にはこだわりません。ひとしきり満腹したころ、瀬野さんはご家族の看病があるので帰宅。その後おいしい酒に飲まれて深夜まで宴会が続いた。

2013年6月30日

寝たのが午前2時前、朝日が差し込んで蓑庵は早くから明るくなる。寝不足だが良い酒を飲んだので二日酔いはない。和光さんに居谷さん、それに小谷さんが加わって朝食を準備して下さった。和光米のおにぎりが今日の弁当。



目通りの幹回り 14m, 樹高 30m とある推定樹齡千年を超す間野の大櫨



アオバズクを見る、撮る



能勢氏の菩提寺 清普寺



能勢氏代々の墓



丸山 山城があった

9:57~10:07 日蓮宗正行山清普寺

山城のあった丸山の南西の山懐にある寺。能勢の菩提寺で歴代の当主やゆかりの人々の立派な墓が守られている。

10:29 地黄城址

清普寺から谷の対岸に屋敷がならんでいてその上に城跡があった。小学校が城の石垣の中に建てられている。敷地の外れに本丸跡らしきものがあった。2015年は築城400周年とかでお祭りをやるらしい。



地黄城址の本丸跡?



真如寺でお参りする居谷さん



妙見奥ノ院入り口



堀越峠から歌垣山へ

10:43 関西身延霊場真如寺

城跡の北に谷筋を妙見奥ノ院に登る道があり、これに沿って登る。ビワの実が沢山なっているのを見つけて採って食べてみる。実は小さいがそこそこ甘く乾いた口中を潤してくれた。舗装された狭い急坂の車道を登ると真如寺に到着。ここで一休みした後、奥の谷に入るとすぐ登山道になった。良く踏まれた急坂を登り、道が等高線に沿ってトラバースするようになってすぐに奥ノ院入り口に。

11:19~11:40 妙見奥ノ院階段下

30分強汗をかきながら登ると奥ノ院の入り口に到着。ここでゆっくり登ってくる金井さんを待つ。井上は千山登山に一峰加えるべく、単独で階段を上って妙見奥ノ院の頂上を踏んだ。山頂には石塔が建てられていた。皆は金井さんの到着を待っている間に昼食のおにぎりをいただいた。

ここで所用のある居谷さんが時間切れで皆と別れて来た道を下山。ここからは5人となった。

12:17 堀越峠

歌垣山へは一旦堀越峠に下って登り返す。

12:42~13:10 歌垣山 553.5m

峠から林の良く踏まれた登山道を登って頂上へ。山頂の三角点は丸く御影石を加工したもので囲われていた。GPSは565mを示していた。averagingというGPSデータの精度向上機能を使って地図の標高に近づけようとしたが20分程度では変化がなく良いデータは得られなかった。

山頂には展望台の檜が設えてある。



歌垣山三角点 553.5m



橋本さん



歌垣山山頂の展望台



間野神社

「若き男女の宴や歌垣の場」として古代より親しまれていた山だとか。現代流に言えば合コン、婚活そ



して仲の良い男女の逢瀬の場であったようだ。

小谷さん、足が悪いと言いつつもしっかり歩いて歌垣山に到着。歩き始めは痛い歩くけどだんだん良くなるということである。これはもっと山に行けという神様の示唆ではないだろうか。

13:45～14:42 倉垣登山口

地図には頂上から直接西の谷に降りる登山道が記されているが、実際には少し北に稜線を下り、最初のコルから左手の谷に道が下っていた。植林地の谷を効率よく下り、水流が出てきたらしばらくして集落の外れに出た。ここで金井さんを待つ。

14:50 高屋亭

倉垣登山口にある店の自動販売機で冷たい飲み物を補給した。ここからは車道を歩いて間野の大櫓まで戻らねばならない。最近高屋さんが民家を買取ったと言うのでどんな家か興味があった。彼は関東の住まいを畳んでこの里山に終の棲家を求めたようだ。間野神社の山側、郵便局の前なので解りやすい。改装が済んで落ち着いたなら招待があるものと信じて待ちたい。

15:15 野間の大櫓帰着

金井さん、冷たいものが腹ぐあいをそこねて遅れたので先行して車を回収、高屋亭まで戻り、ここで解散。井上は HaksanView に直接帰宅、他は一旦蓑庵に戻った。

里山散策の楽しさを十分味わうことのできた例会でした。万歩計は初日が 13840 歩、翌日は 20076 歩だった。里歩きは山道より歩数が伸びるようです。次回はより多数の参加が期待されます。まだまだ歩いてみたい場所も多く残されています。

今回気づいたのですが、栗栖=クリス=cross すなわちキリスト教の十字架ですか。また、能勢氏の家紋が十字架に見えました。能勢は隠れキリシタンの土地でしょうか

(以上、時間記録は井上のカメラの記録による (井上 記))